

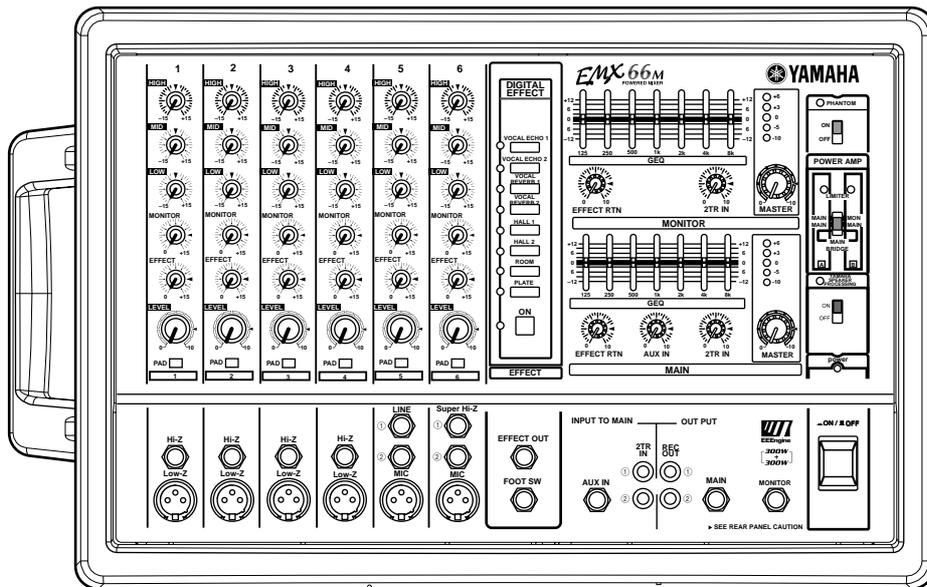


# EMX 66M

POWERED MIXER



## 取扱説明書



この説明書をお読みになったあとは、保証書とともに保管してください。

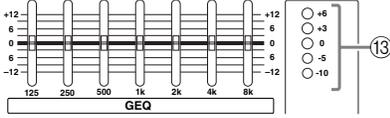


# EMX66M 取扱説明書の訂正

このたびは YAMAHA パワードミキサー EMX66M をお買い求めいただきまして、まことにありがとうございます。EMX66M の取扱説明書に一部誤りがございましたので、訂正させていただきます。お手数ですが、該当箇所を以下のように読み替えていただきますようお願い申し上げます。

## P.9

### ■ メイン



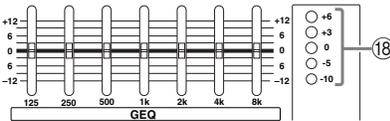
#### ⑬ レベルメーター

MAIN 端子(入出力部) ⑥ から出力される信号のレベルを表示します。

注意: SPEAKERS 端子 リアパネル ① から出力される信号は、MAIN 端子の出力信号が内蔵パワーアンプを通過して出力されます。信号のレベルは、LIMITER インジケーター(⑲)でご確認ください。

## P.10

### ■ モニター



#### ⑱ レベルメーター

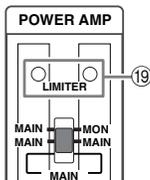
MONITOR 端子(入出力部) ⑥ から出力される信号のレベルを表示します。

注意: SPEAKERS 端子 リアパネル ① から出力される信号は、MONITOR 端子の出力信号が内蔵パワーアンプを通過して出力されます。信号のレベルは、LIMITER インジケーター(⑲)でご確認ください。

### ■ パワーアンプ

#### ⑲ LIMITER インジケーター

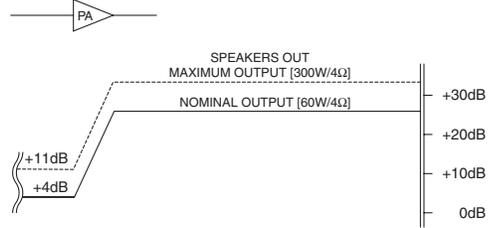
SPEAKERS 端子からの出力パワーアンプの出力が最大になると、インジケーターが点灯します。



注意: LIMITER インジケーターが長時間点滅すると、パワーアンプに過大な負荷がかかり、故障の原因となります。信号の最大入力時に一瞬点灯するレベル以下に、MASTER コントロール(⑫⑰)で信号のレベルを下げてください。

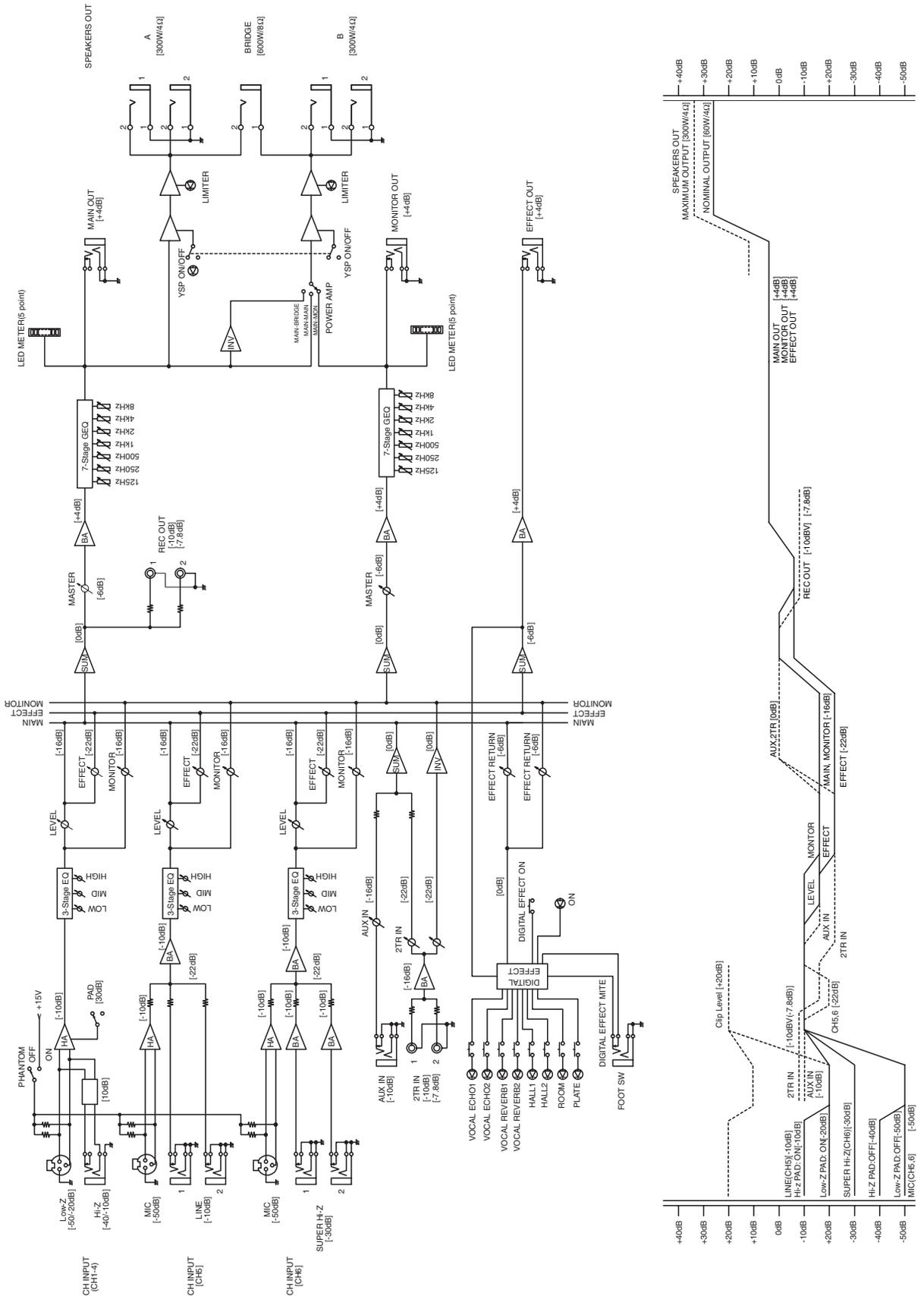
## P.27

### ■ ブロック / レベルダイアグラム



レベルダイアグラムのパワーアンプ出力部分(右端) +4dB(レベルメーターの「0」が点灯)のとき、SPEAKERS 端子の出力は 60W/4 です。また、+11dB LIMITER インジケーターが点灯)のとき、SPEAKERS 端子の出力は、最大の 300W/4 になります。ただし BRIDGE 端子の場合は、+4dB のとき 120W/8 、+11dB のとき 600W/8 になります。

# Block and Level diagram



# ！安全上のご注意 安全にお使いいただくため

安全にお使いいただくため、ご使用前にこの「安全上のご注意」をよくお読みください。またお読みになったあと、いつでも見られるところに必ず保管してください。

絵表示 この取扱説明書および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

絵表示の例

-  : 注意(危険・警告を含む)を促す事項
-  : 決しておこなってはいけない禁止事項
-  : 必ずおこなっていただく強制事項

**警告** この欄に記載されている事項を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性があります。

| 設置されるとき   |  |
|---|--|
|            | <p>この機器はAC100V専用です。それ以外の電源(AC200V、船舶の直流電源など)では使用しないでください。火災・感電の原因となります。</p> <p>この機器に水が入ったり、機器がぬれたりしないようご注意ください。火災・感電の原因となります。雨天・降雪時や海岸・水辺での使用はとくにご注意ください。</p> <p>この機器の上に水などの入った容器や小さな金属物を置かないでください。こぼれたり、中に入ったりすると、火災・感電の原因となります。</p> <p>電源コードの上に重い物をのせないでください。コードに傷が付くと、火災・感電の原因となります。とくに、敷物などで覆われたコードに気付かず、重い物を載せたり、コードが本機の下敷きになることのないよう、十分にご確認ください。</p> |
|          | <p>この機器には付属の電源コードをご使用ください。それ以外のものを使用すると、火災・感電の原因となることがあります。</p> <p>この機器は電源スイッチを切った状態でも完全に主電源が遮断されていませんので、機器を電源コンセントの近くに設置し、電源プラグへ容易に手が届くようにしてください。</p>   |
| ご使用になるとき  |  |
|          | <p>電源コードを傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしないでください。コードが破損して、火災・感電の原因になります。</p>  |
| <br>分解禁止 | <p>この機器の裏ぶたやカバーは絶対に外さないでください。感電の原因になります。</p> <p>内部の点検・整備・修理が必要と思われるときは、販売店にご依頼ください。</p> <p>この機器を改造しないでください。火災・感電の原因となります。</p>  |
| 使用中に異常が発生したとき   |  |
|          | <p>断線・芯線の露出など、電源コードが傷んだら、販売店に交換をご依頼ください。そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。</p>   |
|          | <p>万一、この機器を落としたり、キャビネットを破損した場合は、電源スイッチを切り電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。</p>  |
|          | <p>煙が出る、変なにおいや音がするなどの異常がみとめられたときや、内部に水などの異物が入った場合は、すぐに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。そのあと、販売店にご連絡ください。異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。</p>  |
|          | <p>雷が鳴りだしたら、早めに機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。</p>  |
|            | <p>落雷のおそれがあるとき、電源プラグが接続されたままならば、電源プラグには触れないでください。感電の原因となります。</p>   |



## 注意

この欄に記載されている事項を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負ったり、物的損害が発生したりする可能性があります。

|  |  |
|--|--|
| <div data-bbox="220 315 309 405" data-label="Image"></div> <p><b>設置されるとき</b></p> <p>電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らないでください。必ずプラグを持ってください。コードを引っ張ると、電源コードが傷ついて、火災・感電の原因となることがあります。</p> <p>濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となることがあります。</p> <p>この機器の通風孔をふさがないでください。内部の温度上昇を防ぐため、この機器のケースの後部には通風孔があげてあります。通風孔がふさがると内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。</p> <p>とくに次のような使い方は避けてください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 機器をおお向けや横倒し、逆さまにする。</li> <li>・ 本箱や押し入れなど、専用ラック以外の風通しの悪い狭いところに押し込める。</li> <li>・ テーブルクロスを掛けたり、じゅうたんや布団の上に置いて使用する。</li> </ul> | <div data-bbox="863 259 952 349" data-label="Image"></div> <p>オーディオラックなどに入れるときは、放熱をよくするために、壁や他の機器との間に隙間をとってください。隙間の大きさは、側面では10cm、背面では15cm、天面では25cm以上必要です。</p> <p>さらにラックの背面を開放するか、もしくはラックの背面に相当の通風孔を開けてください。</p> <p>放熱が不十分だと内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。</p> |
|  | <p><b>ご使用になるとき</b></p> <div data-bbox="863 658 952 748" data-label="Image"></div> <p>スピーカー端子とスピーカーの接続には、スピーカー接続専用のケーブルのみをお使いください。それ以外のケーブルを使うと火災の原因となることがあります。</p>   |
|  | <p><b>お手入れについて</b></p>   |
|  | <div data-bbox="863 869 962 958" data-label="Image"></div> <p>この機器の SPEAKERS 端子に接続するフォンプラグは、接続の前に接触部をクリーニングしてください。汚れていると、熱を持つことがあります。</p>  |

## ！ 使用上のご注意

正しくお使いいただくため

|   |   |
|---|---|
| <p><b>コネクターの極性について</b></p> <p>XLRタイプコネクターのピン配列は次のとおりです。<br/>1：シールド(GND) 2：ホット(+ ) 3：コールド(- )<br/>これは、IEC60268規格に基づいています。</p>                        | <p><b>携帯電話への影響について</b></p> <p>この機器のすぐ近くで携帯電話などを使用すると、機器にノイズが入ることがあります。そのようなときは、少し離れた場所で電話をしてください。</p>   |
| <p><b>摩擦部品の交換</b></p> <p>スイッチ・ボリューム・接続端子などの部品は、磨耗部品といわれ、使用とともに性能が劣化します。劣化の進行度は、使用環境などによって大きく異なりますが、劣化そのものを避けることはできません。劣化した磨耗部品の交換は、販売店へご相談ください。</p> | <p><b>音量セッティング</b></p> <p>イコライザーやボリュームを全て最大にするようなセッティングはやめてください。もしこのようにセットした場合、入力側に接続する機器およびスピーカーの条件により発振したり、スピーカーを破損する原因となりますので注意してください。</p> |

## はじめに

このたびはYAMAHAパワードミキサーEMX66Mをお買い求めいただきまして、まことにありがとうございます。EMX66Mの優れた機能を十分に発揮させるとともに、未永くご愛用いただくために、この取扱説明書をご使用の前に必ずお読みください。お読みになったあとは保証書とともに保管してください。

## 特長

- ・ エレクトリックアコースティックギターなどの入力に適したハイインピーダンス入力を始め、マイクロフォンからラインレベル機器まで対応の6系統の入力チャンネルを搭載。最大出力300W+300W(ブリッジ接続で600W)のパワフルなパワードミキサー。設備用から小規模のPAまで幅広く対応します。
- ・ 2系統のパワーアンプを内蔵。2系統のミックス信号をメイン+メイン、メイン+モニター、メイン(ブリッジ接続)のいずれかで出力可能。
- ・ モニター部とメイン部それぞれに独立した7バンドグラフィック・イコライザーを装備。メインスピーカーとモニタースピーカーとを別々に、音量、周波数特性の調整ができます。
- ・ パワーアンプ部にリミッター回路を搭載し、音の歪みを防止しスピーカーを保護します。
- ・ 8種類のエフェクトタイプから選択できる、デジタルエフェクトを内蔵。様々なエフェクトをかけて、ボーカルや楽器にリバーブやアンビエンスを加えます。
- ・ 比類ない高効率駆動を実現したヤマハ独自の画期的なアンプドライブ技術『EEエンジン』を搭載。EEエンジンの省電力・低発熱設計により、消費電力50%以下、発熱量35%以下(実使用時・従来型当社比)を実現し、電力コストの削減、熱による設置条件の緩和がはかられています。

## 目次

|                              |    |
|------------------------------|----|
| はじめに                         | 4  |
| 特長                           | 4  |
| EMX66Mクイックガイド                | 5  |
| 各部の名称と機能                     | 8  |
| コントロール部                      | 8  |
| 入出力部                         | 12 |
| リアパネル                        | 14 |
| 設置 / 接続                      | 15 |
| 設置                           | 15 |
| 接続                           | 15 |
| 基本操作                         | 18 |
| マイクロフォン、楽器の接続                | 18 |
| モニター                         | 18 |
| デジタルエフェクトの使用                 | 18 |
| セットアップ例                      | 19 |
| コンファレンスPAシステム / 据え付けサウンドシステム | 19 |
| バンドのPA                       | 20 |
| ラックマウント(オプション)               | 22 |
| 故障かな?と思ったら                   | 23 |
| 仕様                           | 24 |
| 一般仕様                         | 24 |
| 入力仕様                         | 25 |
| 出力仕様                         | 25 |
| 寸法図                          | 26 |
| ブロック / レベルダイアグラム             | 27 |

# EMX66M クイックガイド

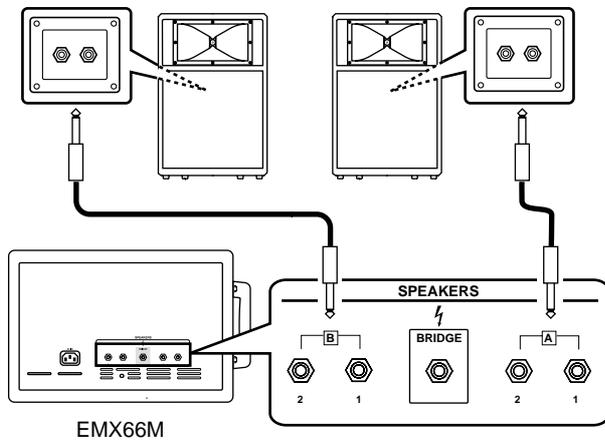
以下のSTEP 1～5はEMX66Mの最も基本的な接続と操作手順です。

必要に応じてこの後に続く「各部の名称と機能」、「基本操作」をご覧くださいことで、さらに快適にお使い頂けます。

## STEP 1 接続する

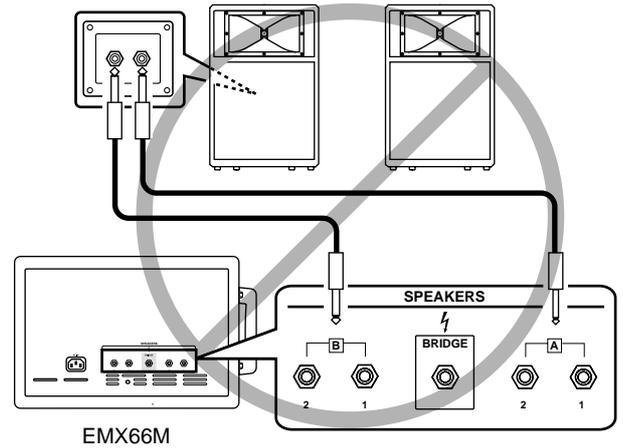
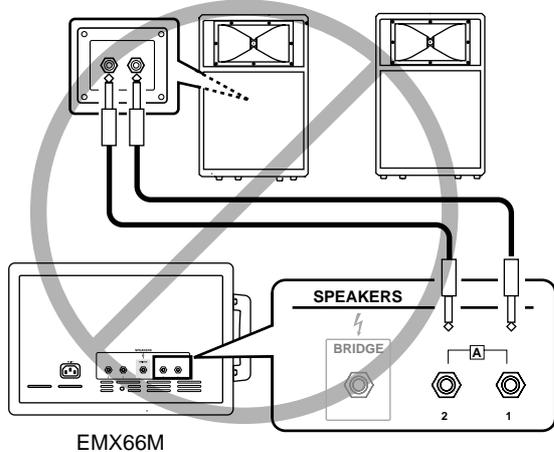
### スピーカーの接続

EMX66M後部のSPEAKERS端子Aの1か2、Bの1か2にスピーカーを各1台づつスピーカーケーブルで接続します。



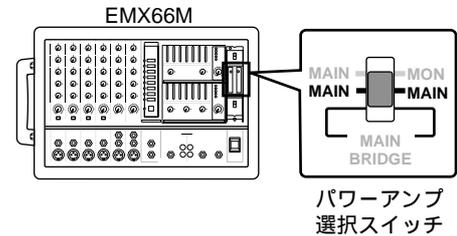
- ・スピーカーには2つの入力端子がありますがどちらに接続しても構いません。
- ・スピーカー接続には必ずスピーカー接続専用のケーブルをお使いください。

以下のような接続はEMX66Mの内蔵パワーアンプを破損しますので絶対に行なわないでください。



### パワーアンプモードの設定

パネル右のパワーアンプ選択スイッチをMAIN-MAINに設定します。

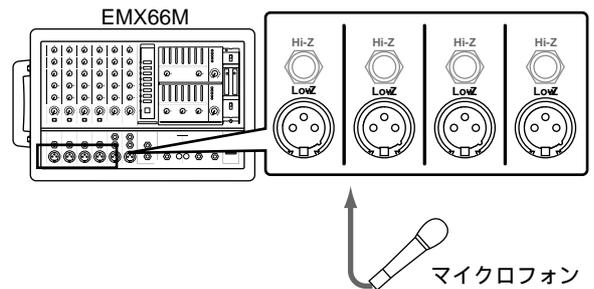


- ・このクイックガイドでは2台のスピーカーをメインスピーカーとして使用する場合で説明しています。他の接続方法とパワーアンプ選択スイッチに関してはP15、P16を参照してください。

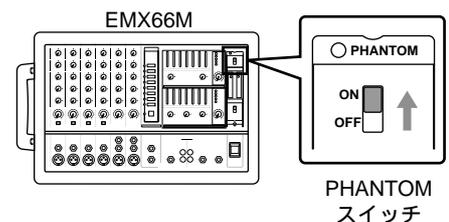
### マイクの接続

本機の電源がオフになっていることを確認してください。

チャンネル1～4のいずれかのLow-Z端子に接続します。



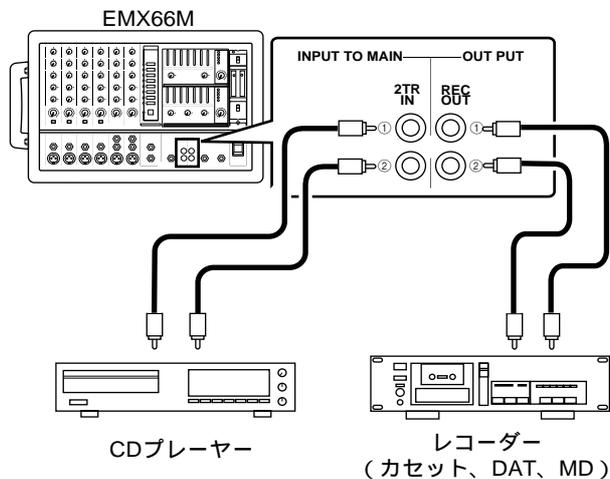
コンデンサータイプのマイクを使用する場合  
パネル右上のPHANTOMスイッチをオンにします。



- ・本機の電源がオンになっているときにPHANTOMスイッチがオンのまま、コンデンサータイプのマイクを抜き差ししないでください。

CDプレーヤー、MDプレーヤー、カセットデッキの接続

BGM再生用のCDプレーヤーなどを2TR IN端子に接続します。接続する機器の入出力についてはそれぞれの機器の取扱説明書をご覧ください。

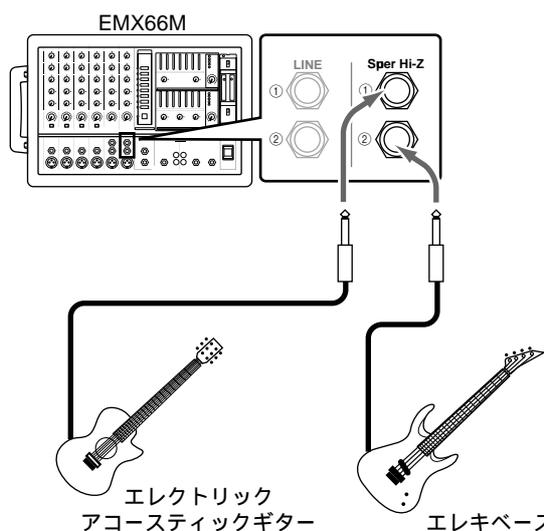


- ・ 2台目以降を接続するときはLINE端子、あるいはHi-Z端子に接続します。
- ・ 同じチャンネルのHi-Z端子とLow-Z端子は同時には使用できないので、すでにLow-Z端子にマイクを接続してあるチャンネルには接続できません。
- ・ 再生だけでなく録音も可能な機器はREC OUT端子に接続して録音することができます。

エレキアコースティックギター / エレキベースの接続

エレキアコースティックギター / エレキベースはSuper Hi-Z端子に接続します。

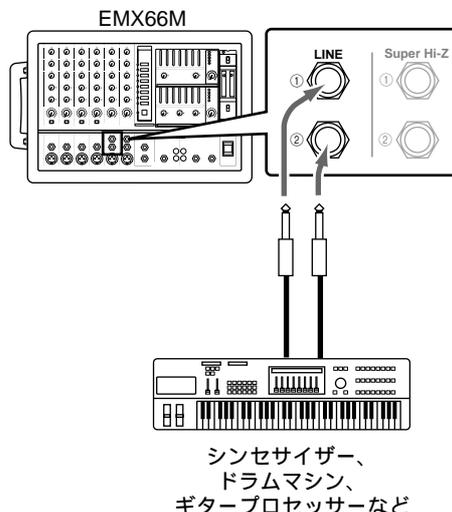
1と2のどちらの端子に接続しても、また両方に接続しても構いません。



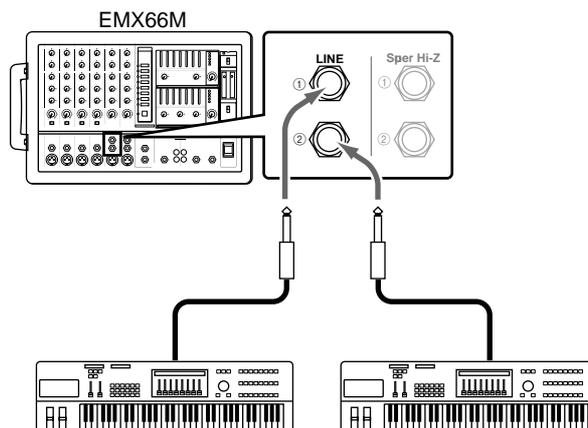
- ・ ギターエフェクターやベースエフェクターを使用する場合はHi-Z端子、LINE端子に接続します。ただし同じチャンネルのHi-Z端子とLow-Z端子を同時には使用できないので、すでにLow-Z端子にマイクを接続してあるチャンネルには接続できません。

電子楽器の接続

シンセサイザー、ドラムマシン、エレキギターを接続したプロセッサなど、電子楽器はLINE端子に接続します。通常は以下のように電子楽器の出力端子(L/MONO, Rなど)とステレオで接続します。



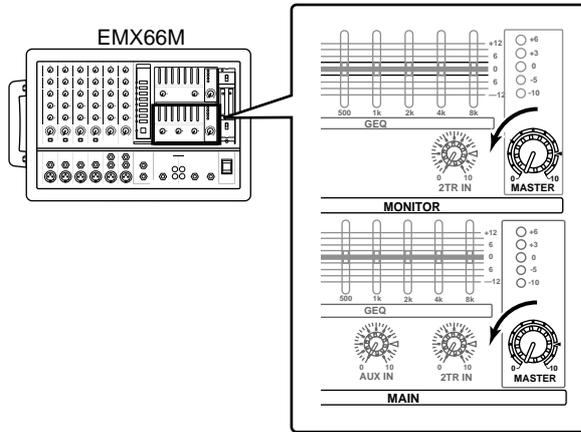
接続する機器が多い場合は以下のようにモノラルで接続します。



- ・ 接続機器が多い場合はHi-Z端子やSuper Hi-Z端子にも接続できます。ただし同じチャンネルのHi-Z端子とLow-Z端子を同時には使用できないので、すでにLow-Z端子にマイクを接続してあるチャンネルには接続できません。

## STEP 2 電源を入れる

- 1 接続した外部機器の電源をすべてオンにします。
- 2 EMX66Mのモニター(MONITOR)部とメイン(MAIN)部両方のMASTERコントロールツマミが0になっていることを確認し、EMX66MのPOWERスイッチを押し込んでオンにします。

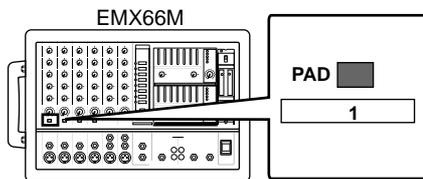


- ・スピーカーを破損から守るため電源を入れる順番は上記を守ってください。

## STEP 3 音を出す

メイン(MAIN)部のMASTERコントロールを“√”の位置にし、チェックしたいチャンネルに接続した楽器を弾きながら(またはマイクに声を出しながら)、メイン(MAIN)部のピークレベルインジケータの0LEDが時々点灯するようにチャンネルのLEVELコントロールで調整します。

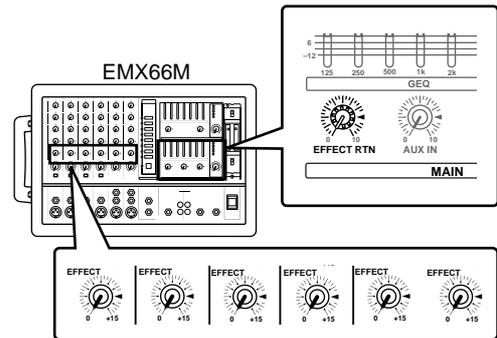
- ・マイク入力時はPADスイッチは押さないでください。マイク以外の入力時はPADスイッチを押しオンにしてください。



- ・パネル右側のYAMAHA SPEAKER PROCESSINGスイッチをオンにすると低音が補正されます。
- ・LIMITERインジケータが長く点灯し続けると内蔵アンプやスピーカーを破損する原因となりますのでご注意ください。

## STEP 4 内蔵エフェクトをかける

- 1 デジタルエフェクト(DIGITAL EFFECT)部のONスイッチを押しスイッチを点灯させます。
- 2 8つのエフェクトタイプからどれか1つを選び、スイッチを押しします。
- 3 エフェクトをかけたいチャンネルのEFFECTコントロールとメイン(MAIN)部のEFFECT RTNコントロールでかかり具合を調整します。



## STEP 5 電源を切る

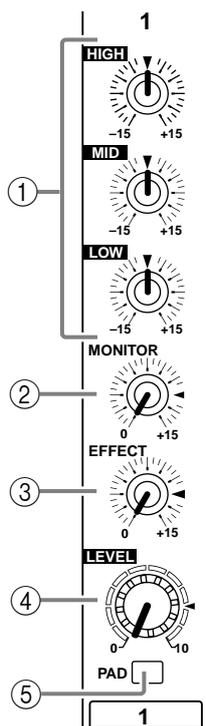
- 1 最初にEMX66MのPOWERスイッチを押しオフにします。
  - 2 接続した外部機器の電源をオフにします。
- ・スピーカーを破損から守るため電源を切る順番は上記を守ってください。
  - ・次回使用するときの為、EMX66Mのメイン(MAIN)部とモニター(MONITOR)部両方のMASTERコントロールツマミを0にしておくことをお勧めします。

# 各部の名称と機能

## コントロール部

### チャンネルコントロール

各チャンネルの入力信号に対するイコライゼーション(周波数特性)や音量、エフェクト、モニター出力レベルを調整します。



#### ① イコライザ( HIGH、MID、LOW )

3バンドイコライザで、各チャンネルの高域、中域、低域を調整します。ツマミの位置が「0」のときにフラットな特性となります。ツマミを右に回すと該当周波数帯域がブーストされ、左に回すとカットされます。

各帯域は、下記の基準周波数にて最大可変幅  $\pm 15\text{dB}$  でコントロールします。

HIGH: 10kHz  $\pm 15\text{dB}$ ( シェルビング )

MID: 2.5kHz  $\pm 15\text{dB}$ ( ピーキング )

LOW: 100Hz  $\pm 15\text{dB}$ ( シェルビング )

#### ② MONITOR( モニター )コントロール

各チャンネルからMONITORバスに送り出す信号のレベルをコントロールします。

MONITORバスの信号は、SPEAKERS B 1/2端子に接続したスピーカー(ただしパワーアンプ選択スイッチが「MAIN-MON」の位置に設定されているときに限ります)およびMONITOR端子(入出力パネル部⑥)に送られます。

注意:この信号は、各チャンネルのLEVELコントロール④の手前でMONITORバスに入るので、LEVELコントロールの設定には影響を受けません。

#### ③ EFFECT( エフェクト )コントロール

各チャンネルからEFFECTバスに送り出す信号のレベルをコントロールします。

EFFECTバスの信号は、内蔵エフェクトとEFFECT OUT端子(入出力部③)の両方に送られます。

注意:この信号は各チャンネルのLEVELコントロール④の後でEFFECTバスに入るので、EFFECTバスに送られる信号のレベルはこのEFFECTコントロールの設定だけでなくLEVELコントロールの設定に影響を受けます。

#### ④ LEVEL( レベル )コントロール

各チャンネルからMAINバスと内蔵パワーアンプに送り出す信号のレベルを調整します。

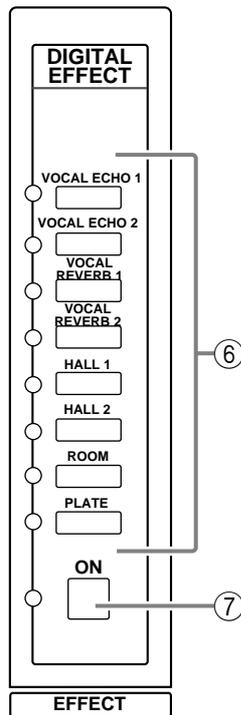
MAINバスの信号はMAIN端子(入出力部⑥)、SPEAKERS端子(リアパネル①)に送られます。

#### ⑤ PAD( パッド )スイッチ( チャンネル1~4のみ )

入力信号を30dB減衰させます。ラインレベルの機器をチャンネル1~4に接続したり、マイク入力に歪が生じたりした場合は、このスイッチをオンにしてください。(スイッチを押し込んだ状態でオンとなります。)

## デジタルエフェクト

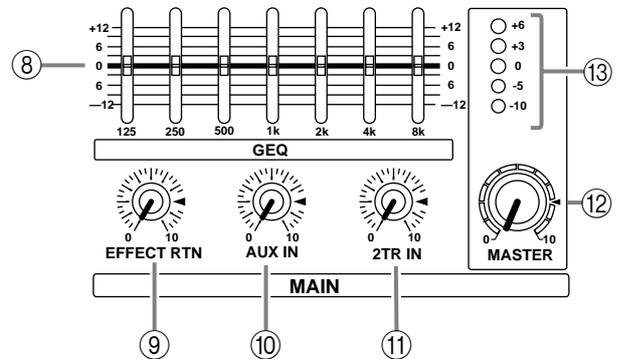
内蔵デジタルエフェクトをオン/オフし、エフェクトタイプを選択します。



- ⑥ エフェクト選択スイッチ、インジケータ  
内蔵デジタルエフェクトのタイプを選択します。選択されたエフェクトタイプのインジケータが点灯します。
- ⑦ ONスイッチ、インジケータ  
スイッチを押してオンにするとインジケータが点灯し、内蔵デジタルエフェクトが使用できます。この場合、デジタルエフェクトで処理した信号はMAIN/MONITORバスに送られます。エフェクトのミックスレベルは、メイン部とモニター部のEFFECT RTNコントロールで調整します。内蔵デジタルエフェクトは、別売のフットスイッチをFOOT SW端子に接続すれば足元でオン、オフできます。

## メイン

MAINバスの音色とレベルを調整し、内蔵エフェクトのミックスレベルと外部入力のミックスレベルを設定します。

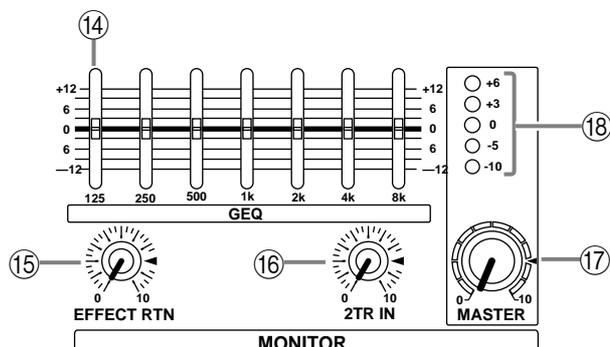


- ⑧ グラフィックイコライザ  
7バンドのグラフィックイコライザで、MAINバス信号の周波数特性を調整し、各周波数帯域で最大 $\pm 12$ dBのカット/ブーストができます。このグラフィックイコライザの設定によって、スピーカーに出力されるMAINバス信号とMAIN端子(入出力部⑥)から出力されるラインレベルの信号も変化します。
- ⑨ EFFECT RTNコントロール  
内蔵エフェクトからMAINバスに戻るエフェクト信号のレベルを調整します。
- ⑩ AUX INコントロール  
AUX IN端子からMAINバスに送られる信号レベルを調整します。
- ⑪ 2TR INコントロール  
2TR IN端子からMAINバスに送られる信号レベルを調整します。
- ⑫ MASTERコントロール  
MAINバスの最終レベルを調整します。この設定によって、スピーカーに出力されるMAINバス信号と、MAIN端子(入出力部⑥)に出力されるラインレベル信号も変化します。
- ⑬ ピークレベルインジケータ  
MAIN端子(入出力部⑥)から出力される信号のレベルを表示します。

注意:歪が生じないように、0インジケータが時々点灯する程度にMASTERコントロール⑫を調整してください。

## モニター

MONITORバスの音色とレベルを調整し、内蔵エフェクトのミックスレベルと外部入力（2TR IN）のミックスレベルを設定します。



### ⑭ グラフィックイコライザー

EMX66Mは7バンドのグラフィックイコライザーを搭載しており、MONITORバス信号の周波数特性を調整し、各周波数帯域で最大±12dBのカット/ブーストができます。

フィードバックが生じやすい周波数帯域のレベルを、このスライダーを使ってカットします。スライダーが中央の位置にある時は、フラットになり、プラスの方向へずらすとブースト、マイナスの方向にずらすとカットできます。

このグラフィックイコライザーの設定によって、スピーカーに出力されるMONITORバス信号とMONITOR端子（入出力部⑥）から出力されるラインレベルの信号も変化します。

### ⑮ EFFECT RTNコントロール

内蔵エフェクトからMONITORバスに戻るエフェクトのレベルを調整します。

### ⑯ 2TR INコントロール

2TR IN端子（入出力部⑤）からMONITORバスに送られる信号レベルを調整します。

### ⑰ MASTERコントロール

MONITORバスの最終レベルを調整します。この設定によって、スピーカーに出力されるMONITORバス信号と、MONITOR端子（入出力部⑥）に出力されるラインレベル信号も変化します。

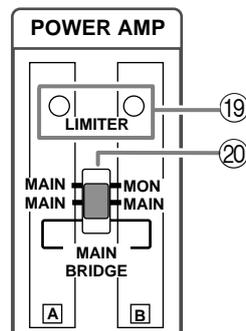
### ⑱ ピークレベルインジケータ

MONITOR端子（入出力部⑥）から出力される信号のレベルを表示します。

**注意:**歪が生じないように、0インジケータが時々点灯する程度にMASTERコントロール⑰を調整してください。

## パワーアンプ

内蔵2系統のパワーアンプに入力する信号を選択します。



### ⑲ LIMITERインジケータ

パワーアンプの出力が最大に達してリミッターが作動すると点灯します。ごく短時間だけの点灯になるように、該当するコントロールで信号のレベルを調整してください。

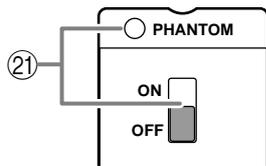
**注意:**もしインジケータの点灯、あるいは点滅した状態が長く続くと、それはパワーアンプに過大な負担がかかった状態が続いていることを意味しており、故障の原因となりますから、そのような使い方は避けてください。

### ⑳ パワーアンプ選択スイッチ

SPEAKERS端子（リアパネル①）のスピーカー接続に合わせて、該当端子に送る信号を選びます。

- MAIN-MON  
MAINバス信号がSPEAKERS A 1/2端子から、MONITORバス信号がSPEAKERS B 1/2端子からそれぞれ出力されます。メイン部とモニター部のMASTERコントロール⑫、⑰はそれぞれに有効です。
- MAIN-MAIN  
MAINバス信号がSPEAKERS A 1/2端子とSPEAKERS B 1/2端子からそれぞれ出力されます。メイン部のMASTERコントロール⑫のみが有効です。
- MAIN BRIDGE  
MAINバス信号がBRIDGE端子から出力されます。2つのパワーアンプがブリッジ接続され、メイン部のMASTERコントロール⑫のみが有効です。

## PHANTOMスイッチ、インジケータ



### ②1 PHANTOMスイッチ、インジケータ

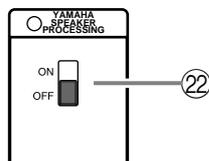
チャンネル1～4のLow-Z入力端子とチャンネル5、6のMIC入力端子のファンタム電源を一括してオン/オフします。オンにするとインジケータが点灯します。

必要のない場合はOFFにしておいてください。

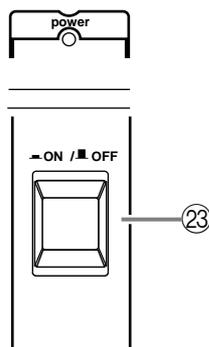
## YAMAHA SPEAKER PROCESSING

### ②2 ON、OFFスイッチ

スピーカーの低域を補正します。オンにしたときの低域のバランスは使用されるスピーカーにより異なりますので試聴して低域のバランスを確かめてからオン/オフを設定します。



## POWERスイッチ、インジケータ

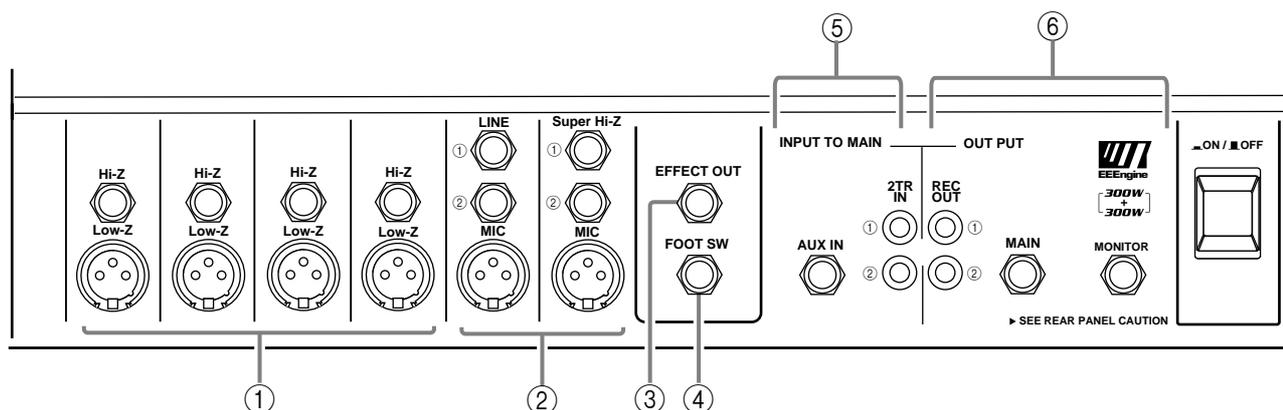


### ②3 POWER ON、OFFスイッチ、インジケータ

本機の電源をオン/オフします。オンにするとインジケータが点灯します。

注意:本機の電源をオン/オフする前に、必ずモニター部とメイン部のMASTERコントロールを完全に下げておいてください。

## 入出力部



## ① Hi-Z、Low-Z入力端子

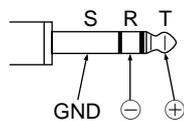
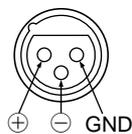
チャンネル1～4の入力端子です。

Hi-ZおよびLow-Zは、どちらもPADスイッチ(コントロール部⑤)を使用して、任意の入力端子をマイクロフォンからラインレベルの機器まで(シンセサイザーやリズムボックスなど)様々な音源に接続できます。Low-Z端子は+15Vファンタム電源を供給し、コンデンサーマイクを使用することができます。

Hi-ZおよびLow-Zは両方ともバランス型です。出力インピーダンス50～600のマイクロフォンや、600のラインレベル機器に対応します。Hi-Z端子の定格入力レベルは-40dB～-10dB、Low-Z端子は-50dB～-20dBです。

両端子のピン配線:

| Low-Z端子(XLRタイプ) | Hi-Z端子(TRSフォン端子) |
|-----------------|------------------|
| ピン1:アース         | スリーブ:アース         |
| ピン2:ホット(+)      | チップ:ホット(+)       |
| ピン3:コールド(-)     | リング:コールド(-)      |



注意:チャンネル1～4のHi-Z入力とLow-Z入力端子を同一チャンネル内で同時に使用することはできません。入力音源に適したどちらか一方の端子のみをご使用ください。

ファンタム電源はチャンネル1～4のLow-Z端子とチャンネル5～6のMIC端子がまとめて同時にオン/オフされるため、PHANTOMスイッチ(コントロール部②)をオンにする場合は、コンデンサーマイク以外の機器は必ずHi-Zまたは、LINE端子に接続してください。

## ② MIC、LINE、Super Hi-Z入力端子

チャンネル5～6の入力端子です。

マイクロフォンはMIC端子に、ステレオのラインレベル機器(シンセサイザーやリズムボックスなど)はLINE端子に接続します。

MIC端子はバランス型で、出力インピーダンスが50～600のマイクロフォンに対応します。

LINE①、②端子はアンバランス型で、出力インピーダンスが600のラインレベル機器に対応します。2つの入力は同時に使用できます。

定格入力レベルはMIC端子が-50dB、LINE端子は-10dBです。

Super Hi-Z①、②端子はアンバランス型で、エレクトリックアコースティックギターやエレキベースなどのハイインピーダンス機器に適しています。また、シンセサイザーやドラムマシンなどのラインレベル機器にも対応しています。2つの入力は同時に使用できます。定格入力レベルは-30dBです。

注意:チャンネル5のMIC入力とLINE入力、およびチャンネル6のMIC入力とSuper Hi-Z入力は同時に使用できます。

## ③ EFFECT OUT(エフェクト出力)端子

ディレイやエコーなどの外部エフェクターは、この端子に接続します。

各チャンネルのEFFECTコントロール(コントロール部③)で調整した信号はEFFECTバスへ送られてこの端子から出力されます。

定格出力レベルおよび適合インピーダンスは+4dB/10kです。

## ④ FOOT SW(フットスイッチ)端子

別売りのヤマハFC5フットスイッチをこの端子に接続し、内蔵デジタルエフェクトをオン/オフすることができます。

⑤ AUX IN/2TR IN INPUT TO MAIN端子

この入力端子を使用し、外部機器からの信号をMAIN出力に加えることができます。外部エフェクターなどのモノ出力機器はAUX IN端子に、カセットレコーダーやCDプレーヤーなどのステレオ出力機器は2TR IN端子に接続します。

定格入力レベルと適合インピーダンスは、AUX IN端子は - 10dB/600 、2TR IN端子は - 10dBV/600 です。

⑥ REC OUT/MAIN/MONITOR OUTPUT端子

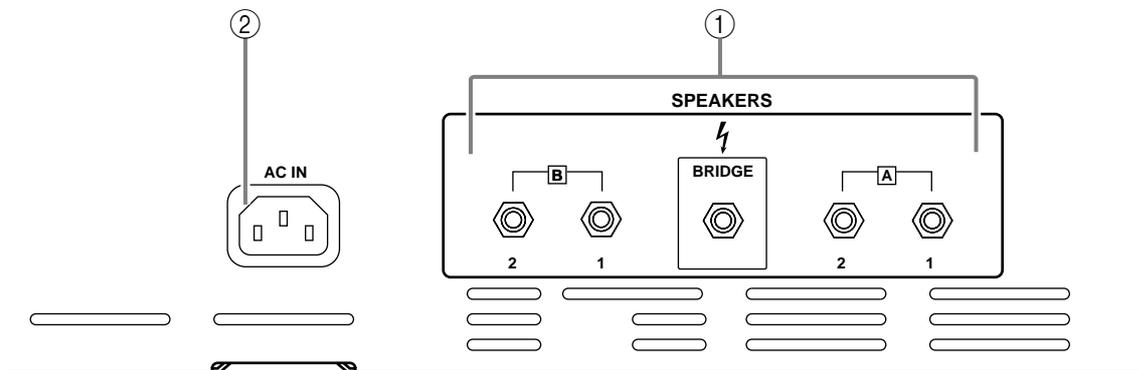
本機から外部機器へラインレベル信号を送り出す出力端子です。

カセットデッキ、DAT、MDレコーダーなどのステレオ録音機器はREC OUT端子に、パワーアンプなどの再生機器はMONITOR端子およびMAIN端子に接続します。各端子からはそれぞれ次の信号が出力されます。

- ・ REC OUT端子: MASTERコントロールおよびグラフィックイコライザーを通過する前のMAINバス信号
- ・ MAIN端子: メイン部のMASTERコントロールとグラフィックイコライザーを通過した、MAINバス信号
- ・ MONITOR端子: モニター部のMASTERコントロールとグラフィックイコライザーを通過した、MONITORバス信号

定格出力レベルと適合インピーダンスは、REC OUT端子が - 10dBV/10k 、MONITOR/MAIN端子が + 4dB/10k です。

## リアパネル



### ① SPEAKERS(スピーカー出力)端子

スピーカーを接続する端子です。本機には2系統のパワーアンプが搭載されており、スピーカーの接続方法は、次の3種類の方法があります。

- ・ 2チャンネル接続
- ・ 2チャンネルパラレル接続
- ・ブリッジ接続

このとき、スピーカー接続に合わせて、コントロール部のパワーアンプ選択スイッチ⑳で該当端子に送る信号を選んでおく必要があります。

詳しくは次ページの「スピーカーの接続」を参照してください。

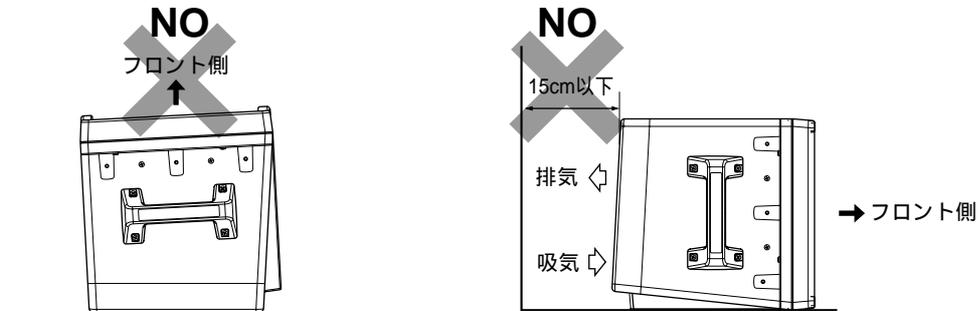
### ② AC IN ソケット

付属の電源コードのソケット側をここに接続します。プラグ側を本書仕様のページに記載されている電源条件に合ったコンセントに接続します。

# 設置 / 接続

## 設置

本機は、後面下部吸気・後面上部排気による強制冷却方式になっておりますので、放熱空気流を妨げないように設置してください。



## 接続

各機器を接続するときは、必ず適切な規格のケーブルおよびプラグを使用してください。  
 スピーカー端子とスピーカ-の接続には、スピーカ-接続専用のケーブルのみをお使いください。

### スピーカ-の接続

本機とスピーカ-の接続には次の3通りの方法があります。

各接続方法ごとにスピーカ-のインピーダンス条件が異なります。下の図を参照して、スピーカ-のインピーダンスが指定値を下回らないよう注意してください。

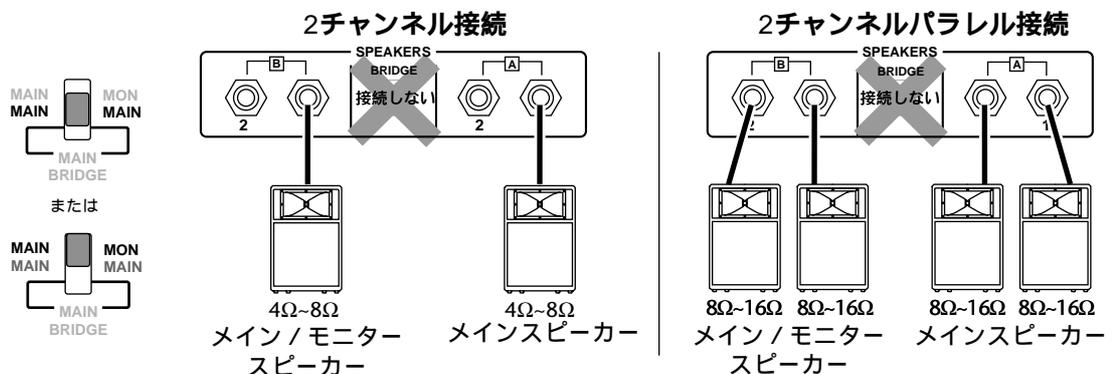
■ パワーアンプ選択スイッチをMAIN-MONまたはMAIN-MAINに設定

・ 2チャンネル接続

SPEAKERS A, Bに4~8 のスピーカ-を1本ずつ(1または2のいずれか一方の端子を使用します)合計2本のスピーカ-を接続する方法です。この接続方法では、300W + 300Wの最大出力(スピーカ-が4 の場合)が得られます。

・ 2チャンネルパラレル接続

SPEAKERS AおよびBに8~16 のスピーカ-を2本ずつ(A/Bの両方の端子を使用します)合計4本のスピーカ-を接続する方法です。この接続方法では、300W + 300W(スピーカ-が8 の場合)の最大出力が得られます。

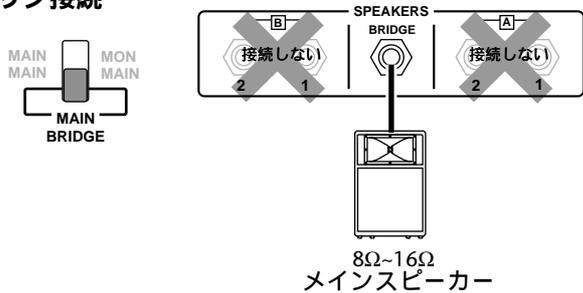


パワーアンプ選択スイッチをMAIN BRIDGEに設定

・ブリッジ接続

BRIDGE端子に8～16Ωのスピーカーを1本のみ接続する方法です。この接続方法では、600W(スピーカーが8Ωの場合)の最大出力が得られます。

ブリッジ接続



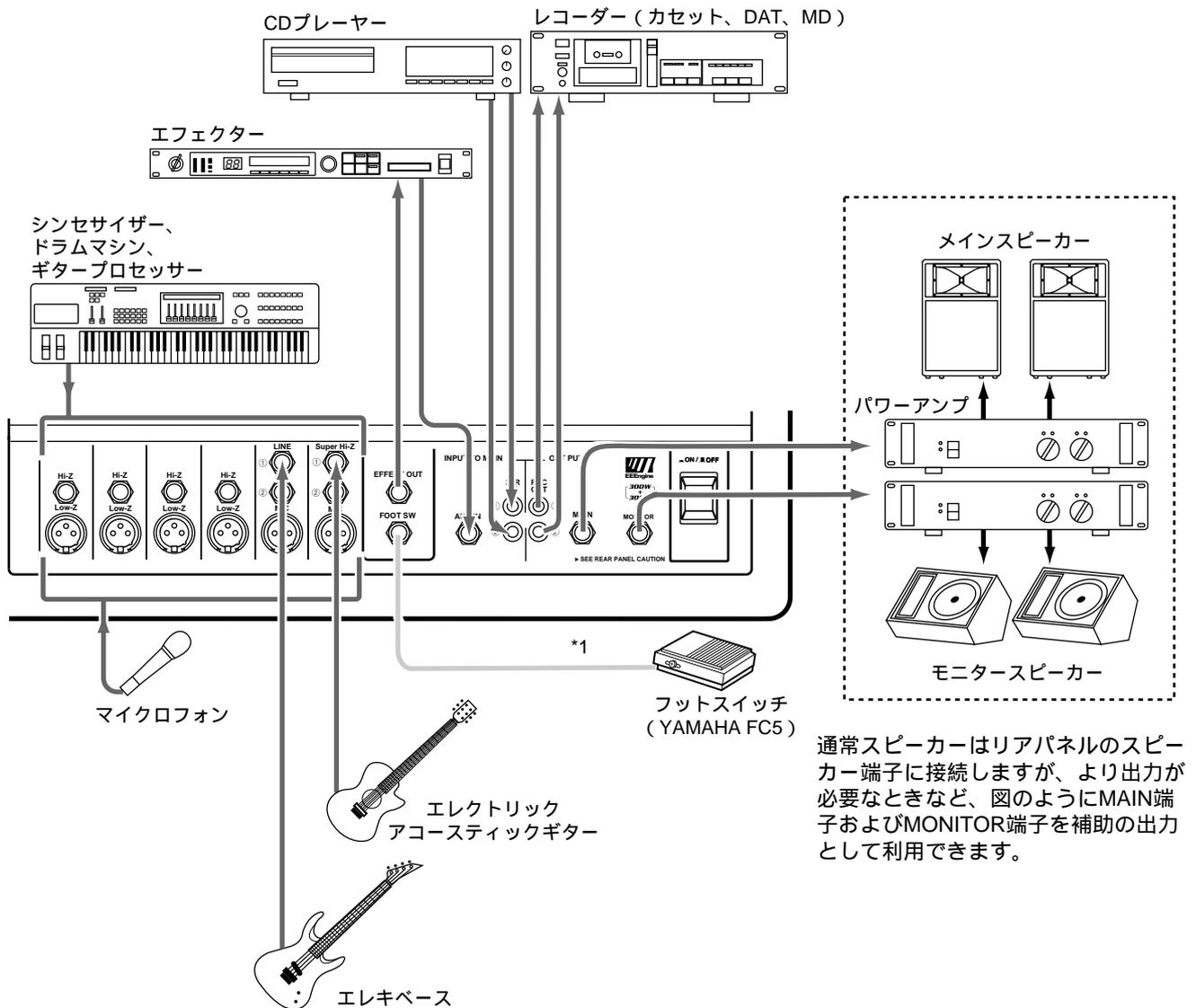
注意:

2チャンネル接続あるいは2チャンネルパラレル接続をするときはBRIDGE端子にはスピーカーを接続しないでください。

ブリッジ接続をするときは、SPEAKERS AとSPEAKERS Bのどちらの端子にもスピーカーを接続しないでください。

ブリッジ端子には、2チャンネルまたは2チャンネルパラレル接続時に誤ってスピーカーを接続しないよう保護キャップが装着されています。ブリッジ接続時には外してください。

## 入出力機器の接続



上図は、各機器を接続する場合の該当端子を示しています。

\* チャンネル1～4のHi-Z入力とLow-Z入力端子を同一チャンネル内で同時には使用できません。

\*1. フットスイッチは本機内蔵のデジタルエフェクトのオン/オフに使用するため、通常は上図のようにエフェクターと同時に使用しません。

## 基本操作

本機の基本操作について説明します。

### マイク、楽器の接続

- ① 接続する前に、まずすべての機器の電源がオフになっていることを確認します。また、本機各チャンネルのLEVELコントロールとメイン部のMASTERコントロールがすべて下がっていることを確認してください。
- ② マイク、楽器にケーブルを接続し、ケーブルの另一端を適宜Low-Z/Hi-Z端子(チャンネル1~4)またはMIC端子(チャンネル5~6)、LINE端子(チャンネル5)、Super Hi-Z端子(チャンネル6)にしっかりと差し込みます。

注意:ラインレベルの機器をチャンネル1~4に接続するときは、PADスイッチをオンにしてください。各チャンネルのLow-Z端子、Hi-Z端子は同時には使用できません。ただし、MIC端子とLINE端子およびMIC端子とSuper Hi-Z端子は同時に使用できます。

- ③ 周辺機器の電源をまずオンにしてから本機の電源を入れます。

注意:電源を切る時はこの逆で、まず本機の電源からオフにします。

- ④ メイン部のMASTERコントロールを“√”の位置にします。
- ⑤ マイクに声を出しながら(または楽器を弾きながら)メイン部のピークレベルインジケータのOLEDが時々点灯するように、チャンネルLEVELコントロールを調整します。各チャンネル、この手順を繰り返します。
- ⑥ 各チャンネルの音色を調整したい場合は、イコライザーコントロールを必要に応じて回してください。
- ⑦ メイン部のグラフィックイコライザーで音色を調整します。
- ⑧ メイン部のMASTERコントロールで、全体の音量を調整します。

### モニター

各チャンネルのLEVELコントロールはそのチャンネルのMONITORコントロールには影響しないので、パワーモニタースピーカーを接続すればメイン部のミックスとは別個のミックスを作ることができます。

- ① モニター部のMASTERコントロールを“√”の位置にします。
- ② マイクに声を出しながら(または楽器を弾きながら)モニタースピーカーで聴きたいチャンネルのMONITORコントロールを上げます。各チャンネル、この手順を繰り返します。
- ③ モニター部のMASTERコントロールを使用して、モニターの音量を調整します。

### デジタルエフェクトの使用

本機はデジタルエフェクトを内蔵しており、ボーカルや楽器にリバーブやアンビエンスを加えることができます。

- ① デジタルエフェクト部のONスイッチを押します。
- ② デジタルエフェクト部のエフェクト選択スイッチで、エフェクトタイプを選択します。  
 VOCAL ECHO 1, 2 ..... ボーカルに適したエコーです  
 VOCAL REVERB 1, 2 ... ボーカルに適したリバーブです  
 HALL. 1, 2 ..... ホールの残響音です  
 ROOM ..... 部屋の残響音です  
 PLATE ..... 鉄板エコー風の残響音です
- ③ メイン部のEFFECT RTNコントロールを“√”の位置にします。
- ④ 該当チャンネルのEFFECTコントロールを上げてデジタルエフェクトをかけます。
- ⑤ メイン/モニター部のEFFECT RTNコントロールで、エフェクトのかかったサウンドのレベルを調整します。

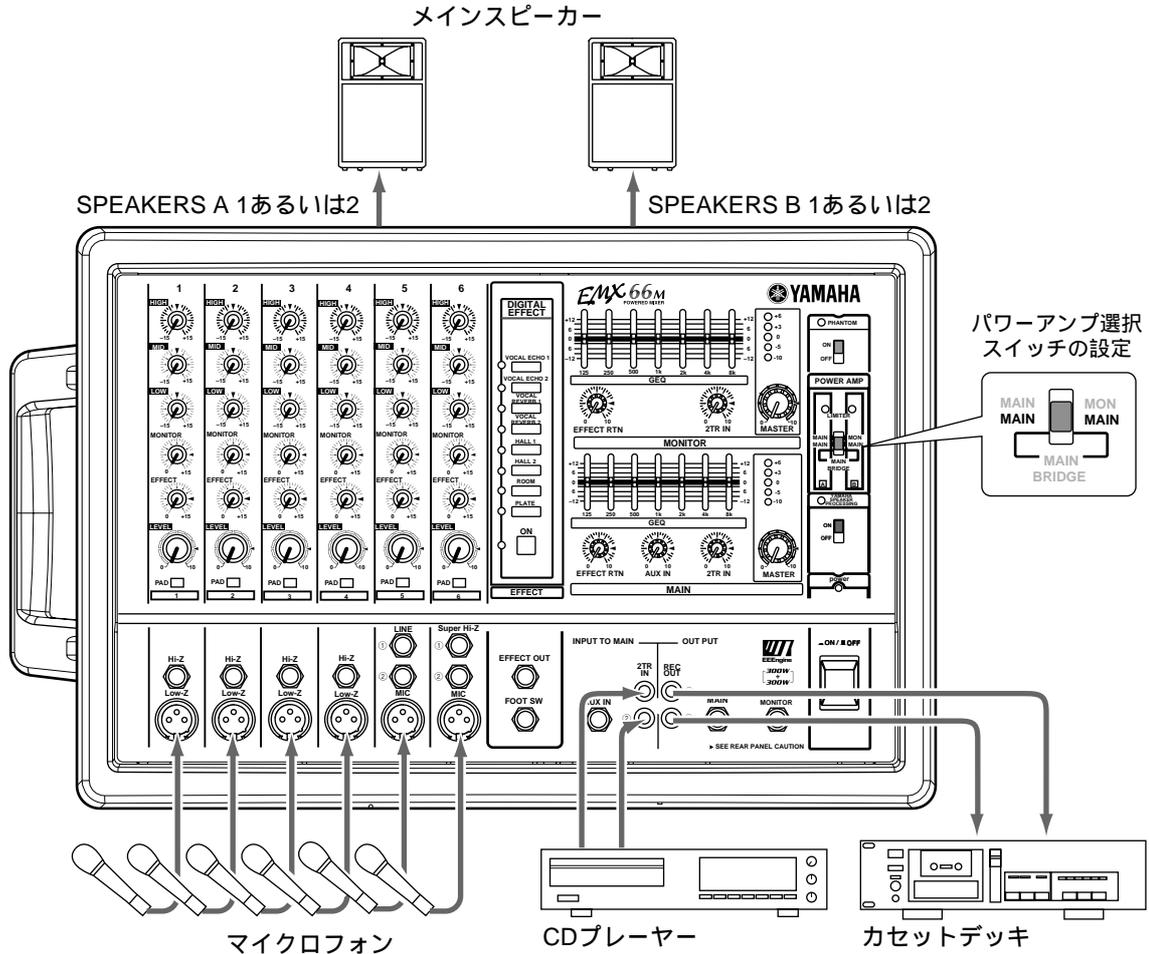
注意: EFFECT RTNを一杯に下げてもエフェクトサウンドが歪む場合は、各チャンネルのEFFECTコントロールを下げてください。

# セットアップ例

本機の様々な使い方、接続、操作について説明します。

## コンファレンスPAシステム / 据え付けサウンドシステム

EMX66MをコンファレンスPAシステムまたは据え付けサウンドシステムとして使った例です。



### 接続

- ・ マイクをチャンネル入力1～6に接続します。
- ・ CDプレーヤーやMDプレーヤーを使用したい場合は、本機の2TR IN端子に接続します。

注意:CDプレーヤー / MDプレーヤーあるいは再生用のカセットデッキはチャンネル5のLINE端子にも接続できます。

- ・ オーディオ信号をカセットデッキで録音したい場合は、本機のREC OUT端子をカセットデッキの入力端子に接続します。
- ・ メインスピーカーをSPEAKERS A 1/2端子およびSPEAKERS B 1/2端子に接続し、パワーアンプ選択スイッチを“ MAIN-MAIN ”にします。

### CDプレーヤーの再生

- ① 周辺機器 EMX66Mの順で電源を入れます。
- ② メイン部のMASTERコントロールを“√”の位置にします。
- ③ CDプレーヤーで再生を開始し、メイン部ピークレベルインジケータの0 LEDが点灯しないように、メイン部の2TR INコントロールを調整します。

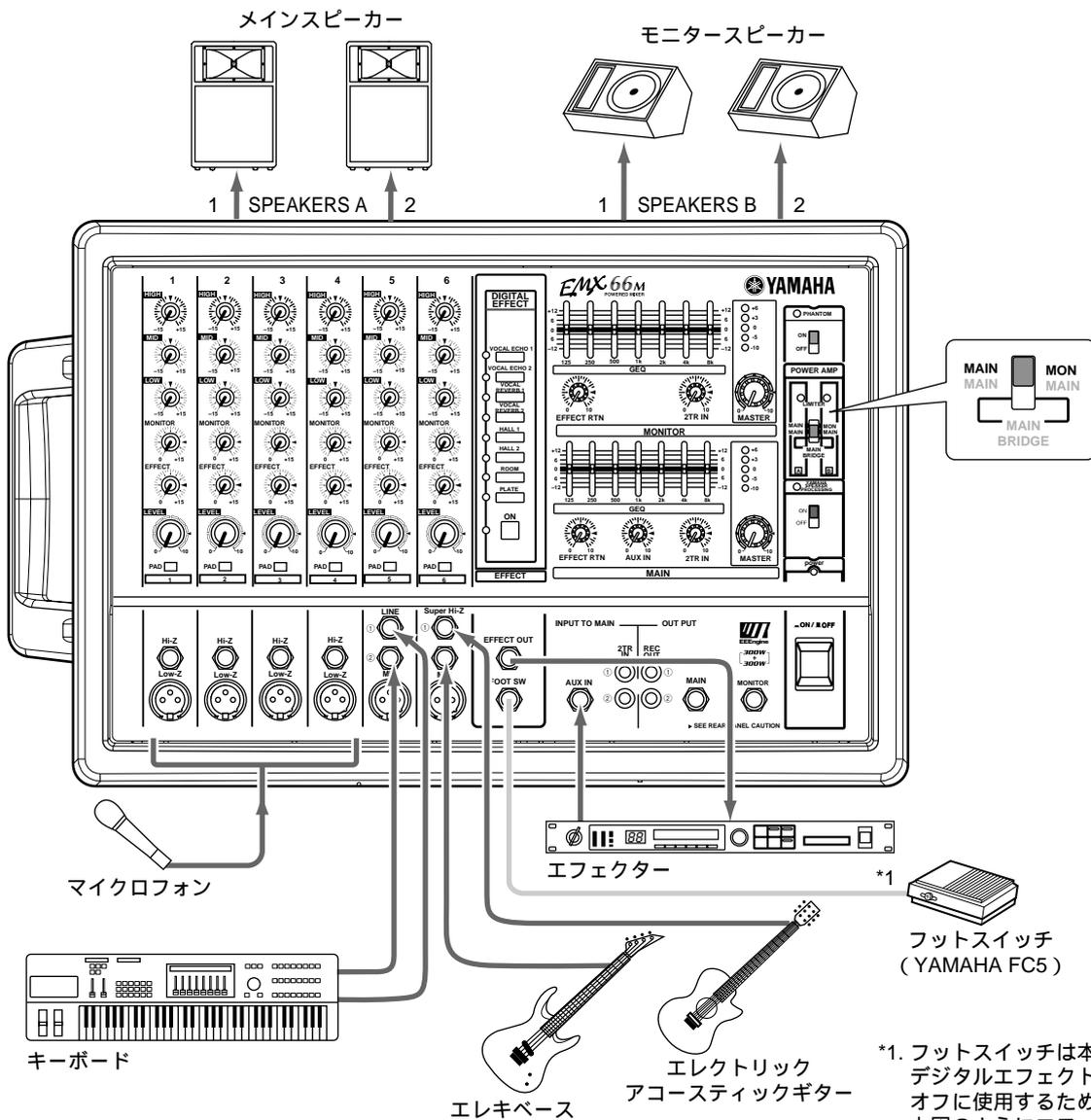
## バンドのPA

バンド用の小規模なPAとして本機を使用する例です。この例ではモニタースピーカーにはメインスピーカーミックスとは別のミックスが送られます。ディレイやリバーブなどの外部エフェクターも使用します。

### 接続

- ・ マイク、キーボード等の楽器をチャンネル入力端子1~6に接続します。
- ・ メインスピーカーをSPEAKERS A 1/2端子に接続し、モニタースピーカーをSPEAKERS B 1/2端子に接続して、パワーアンプ部のパワーアンプ選択スイッチを“ MAIN-MON ”の位置にします。
- ・ ディレイ、リバーブ等の外部エフェクターを使用する場合は、本機のEFFECT OUT端子を外部エフェクターの入力端子に接続し、エフェクターの出力端子を本機のAUX IN端子に接続してください。

注意:外部エフェクターを使用する場合は、メイン部およびモニター部のEFFECT RTNコントロールを下げしておくことをおすすめします。外部エフェクターがステレオ出力の場合は、その出力端子をチャンネル5のLINE端子に接続することができます。ただしこの時、エフェクトが入力されるチャンネルのEFFECTコントロールが上がっていると、フィードバックが生じてスピーカーが損傷することがありますので、EFFECTコントロールは最小に下げてください。



\*1. フットスイッチは本機内蔵のデジタルエフェクトのオン/オフに使用するため、通常は上図のようにエフェクターと同時に使用しません。

## モニタースピーカーに別個のミックスを送出

- ① モニター部のMASTERコントロールを“√”の位置にします。
- ② モニタースピーカーで聴きたいチャンネルのMONITORコントロールを上げます。

注意: 各チャンネルのレベル設定を調整しても、MONITORコントロールには影響ないので、メイン部とは別個のミックスを作成することができます。

- ③ メイン/モニター部のグラフィックイコライザーとMASTERコントロールを使用して、全体の音量と音色を調整します。

## 外部エフェクターの使用

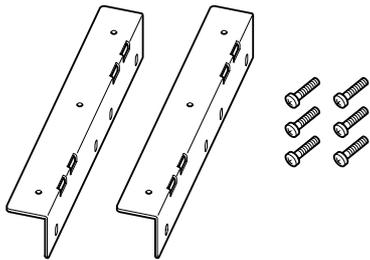
- ① 外部エフェクトをかけたいチャンネルのEFFECTコントロールを上げます。
- ② 外部エフェクトの入力でサウンドが歪まない程度に、外部エフェクト入力レベルを調整します。
- ③ メイン部のAUX INコントロールで、エフェクトのかかったサウンドのレベルを調整します。

# ラックマウント(オプション)

オプションのラックマウントキット RK-88 を使用すれば、本機をラックにマウントできます。

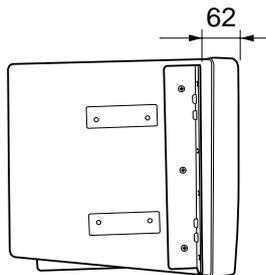
ラックマウントキット RK-88

- ・ 金具2本
- ・ ネジ6本



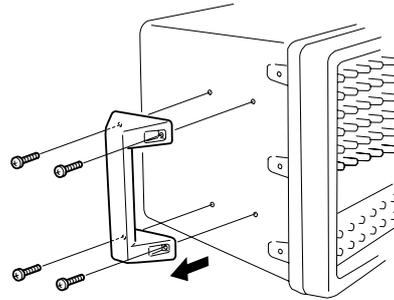
本機をラックへマウントする場合には、通風性を充分考慮したうえでマウントしてください。(密閉ラックは特に避けてください。)

また、本機を含む複数台をラックへマウントする場合には、ミキサー間に1U以上のスペースをあけてください。ミキサー間の空きスペースにブランクパネルを使用される場合には、通風性が考慮された穴あきタイプのブランクパネルをご使用ください。尚、本機取付けには7Uのスペースが必要となります。また、取付後はラック前面から62mm出た状態になります。

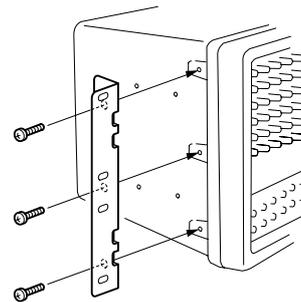


ラックマウント金具の取付けかた

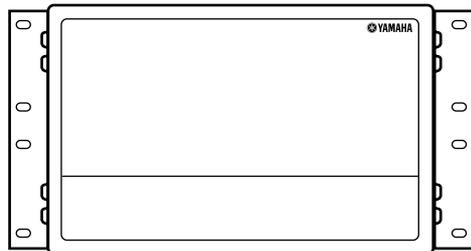
- 1 キャリングハンドルを取り外します。4本のネジをゆるめて取り外します。



- 2 ラックマウント金具を、ラックマウントキットに付属のネジ3本で本機側面に固定します。



- 3 反対側の金具も同様に取付けます。



# 故障かな?と思ったら

この機器で考えられる異常動作の症状と原因、およびそれらの対処方法はつぎのとおりです。

| 症状               |                       | 原因  | 処置  |
|------------------|-----------------------|---|---|
| スピーカーから音が出なくなった。 | POWERインジケーターが、点灯している。 | この機器のアンプにかかる負荷が大きすぎたので、アンプの保護回路が作動しました。<br>過負荷の原因としては、チャンネルコントロール部やメイン部での過大なレベル設定・放熱のための通風状態の不適切・接続しているスピーカーの負荷インピーダンスの不足などの可能性などがあります。 | そのままお待ちください。この機器の冷却につれて、自動復帰します。ただし再発防止のために次の3つの項目をチェックしてください。<br>・レベル設定が大きすぎようでしたら、規定レベルまで下げてください。このとき、メイン部のピークレベルインジケーターが役に立ちます。<br>・通風状態が不適切なようであれば、本書の巻頭の注意を参考に、放熱対策をしてください。<br>・負荷インピーダンスが(ショートも含めて)不足しているようであれば、本書の接続の章(15ページ)を参考に、インピーダンスが適正になるよう接続し直してください。 |
|                  | その他                   | 機器間の接続が緩んだ。   | 接続を点検し、不良個所があれば、修正してください。   |
|                  |                       | その他   | 故障の可能性があります。お買上げ店にご相談ください。  |

## パワードミキサーQ&A

- Q: 内蔵エフェクトがかかりません。
- A: デジタルエフェクト部のONスイッチは押されていますか?チャンネル部のEFFECTコントロールツマミと、メイン部のEFFECT RTNコントロールツマミは調節されていますか?
- 
- Q: 入力音に対し、スピーカーからのモニター音が迫力不足。
- A: 各チャンネルのイコライザー(LOW)ツマミが、マイナ方向へ調節されていませんか?
- 
- Q: シンセサイザーのステレオアウトをチャンネル6のSuper Hi-Z 端子へ接続し、音声を入力したがモニター音がステレオにならない。
- A: Super Hi-Z(あるいはLINE)の1,2端子は、同時使用することは可能ですが、内部の回路はモノラルですので、1,2の信号は混ざってモノラルで出力されます。
- 
- Q: EFFECT OUT 端子から外部エフェクターへ送って、エフェクトのかかった音をAUX IN 端子へ戻しても、ミキサーへ信号が入力されない。
- A: メイン部のAUX INコントロールは右へ回してありますか?
- 
- Q: MONITOR -OUTPUT 端子から、外部のパワードスピーカーへ接続しているのですが、モニター部のMASTER コントロールを回しても信号がスピーカーの方へ送られません。
- A: インプットチャンネルのMONITORコントロールツマミは調節されていますか?
- 
- Q: 入力端子のLow-Z とHi-Z 端子は、同時に使用できますか?
- A: Low-ZとHi-Z入力端子を同一チャンネル内で同時に使用することはできません。
- 
- Q: スピーカー1台の接続は可能ですか?
- A: 可能です。スピーカーはインピーダンス4~8 をご使用ください。

## 仕 様

## 一般仕様

|  |   |   |
|--|---|---|
| 最大出力   | 300W + 300W/4 @0.5% THD at 1kHz( SPEAKERS OUT A, B )<br>205W + 205W/8 @0.5% THD at 1kHz( SPEAKERS OUT A, B )<br>600W/8 @0.5% THD at 1kHz( BRIDGE )  |   |
| 周波数特性  | 20Hz ~ 20kHz + 1dB, - 3dB @1W output into 8 ( SPEAKERS OUT )<br>20Hz ~ 20kHz + 1dB, - 3dB @ + 4dB output into 10k ( MAIN OUT, MONITOR OUT, EFFECT SEND )  |   |
| 全高調波歪率   | < 0.5% @20Hz ~ 20kHz, 150W output into 4 ( SPEAKERS OUT A, B )<br>< 0.3% @20Hz ~ 20kHz, + 14dB output into 10k ( MAIN OUT, MONITOR OUT, EFFECT OUT )  |   |
| ハム & ノイズ<br>( 平均, Rs=150 )<br>( 20Hz ~ 20kHz BPF ) | - 124dB入力換算ノイズ、- 65dB残留ノイズ( SPEAKERS OUT )  |   |
|  | - 88dB残留ノイズ( MAIN OUT, MONITOR OUT )  |   |
|  | - 79dB( 83dB S/N )<br>MAIN OUT, MONITOR OUT   | マスターレベルコントロール: ノミナル<br>全チャンネルレベルコントロール: 最小レベル |
|  | - 69dB( 73dB S/N )<br>MAIN OUT, MONITOR OUT   | マスターレベルコントロール: ノミナル<br>1チャンネルレベルコントロール: ノミナル  |
|  | - 75dB( 79dB S/N )<br>EFFECT SEND   | 全チャンネルレベルコントロール: 最小レベル                        |
|  | - 69dB( 73dB S/N )<br>EFFECT SEND   | 1チャンネルレベルコントロール: ノミナル                         |
| 最大電圧ゲイン  | 88dB CH IN( Low-Z ) SPEAKERS OUT( CH1 ~ 4 )<br>66dB CH IN( Low-Z ) MAIN OUT, MONITOR OUT( CH1 ~ 4 )<br>72dB CH IN( Low-Z ) EFFECT OUT( CH1 ~ 4 )<br>48dB CH IN( Low-Z ) REC OUT( CH1 ~ 4 )<br>56dB CH IN( Hi-Z ) MAIN OUT, MONITOR OUT( CH1 ~ 4 )<br>26dB AUX IN MAIN OUT<br>24dB 2TR IN MAIN OUT<br>66dB MIC IN MAIN OUT, MONITOR OUT( CH5・6 )<br>26dB LINE IN MAIN OUT, MONITOR OUT( CH5 )<br>46dB Super Hi-Z IN MAIN OUT, MONITOR OUT( CH6 ) |   |
| クロストーク ( 1kHz )                                    | 65dB入力CH間、65dB入出力間  |   |
| 入力チャンネル<br>イコライザー特性                                | 最大可変幅 ± 15dB<br>HIGH 10kHz シェルピングタイプ*<br>MID 2.5kHz ピーキングタイプ<br>LOW 100Hz シェルピングタイプ*<br>* シェルピングタイプのターンオーバー / ロールオフ周波数: 最大可変幅に対し 3 dB<br>下がったポイント   |   |
| メーター   | 5ポイントLEDメーター( - 10、- 5、0、+ 3、+ 6dB ) MAIN OUT, MONITOR OUT )  |   |
| グラフィックイコライザー                                       | 7バンド( 125、250、500、1k、2k、4k、8kHz )、最大可変幅 ± 12dB( MAIN OUT, MONITOR OUT )   |   |
| 内蔵デジタルエフェクト  | 8プログラム( VO.ECHO 1、VO.ECHO 2、VO.REVERB 1、VO.REVERB 2、HALL 1、HALL 2、ROOM、PLATE )  |   |
| ファンタム電源  | + 15V( バランス入力 )   |   |
| リミッター  | コンプ: THD 0.5%( SPEAKERS OUT )   |   |
| LIMIT インジケーター                                      | オン: THD 0.5%( SPEAKERS OUT )  |   |
| 保護回路( パワーアンプ )                                     | 電源スイッチオン / オフ ミュート、DC検知、温度( ヒートシンク温度 90 )   |   |
| フットスイッチ( FC5 )                                     | デジタルエフェクトミュート: オン / オフ  |   |
| オプション  | RK-88, FC5  |   |
| 電源   | 100V AC 50/60Hz   |   |
| 消費電力   | 320W  |   |
| 最大外形寸法( W × H × D )                                | 482 × 305 × 328mm   |   |
| 重量   | 15kg  |   |
| 付属品  | 電源コード、取扱説明書   |   |

・ 0dB = 0.775Vrms

## 入力仕様

| 入力端子                              | PAD | 入力インピーダンス | ノミナルインピーダンス   | 入力レベル             |                  |                   | 使用コネクタ                           |
|-----------------------------------|-----|-----------|---------------|-------------------|------------------|-------------------|----------------------------------|
|                                   |     |           |               | 感度 <sup>1</sup>   | ノミナルレベル          | 最大ノンクリップレベル       |                                  |
| CH INPUT( LoW-Z )<br>( CH1 ~ 4 )  | OFF | 3k        | 50 ~ 600 Mics | - 62dB( 0.616mV ) | - 50dB( 2.45mV ) | - 20dB( 77.5mV )  | XLR3-31タイプ <sup>2</sup>          |
|                                   | ON  |           | 600 Lines     | - 32dB( 19.5mV )  | - 20dB( 77.5mV ) | + 10dB( 2.45V )   |                                  |
| CH INPUT( Hi-Z )<br>( CH1 ~ 4 )   | OFF | 10k       | 50 ~ 600 Mics | - 52dB( 1.95mV )  | - 40dB( 7.75mV ) | - 10dB( 245mV )   | フォーンジャック<br>( TRS ) <sup>3</sup> |
|                                   | ON  |           | 600 Lines     | - 22dB( 61.6mV )  | - 10dB( 245mV )  | + 20dB( 7.75V )   |                                  |
| MIC( CH5・6 )                      |     | 3k        | 50 ~ 600 Mics | - 62dB( 0.616mV ) | - 50dB( 2.45mV ) | - 20dB( 77.5mV )  | XLR3-31タイプ <sup>2</sup>          |
| LINE( CH5 ) <sup>1, 2</sup>       |     | 10k       | 600 Line      | - 22dB( 61.6mV )  | - 10dB( 245mV )  | + 20dB( 7.75V )   | フォーンジャック <sup>3</sup>            |
| Super Hi-Z( CH6 ) <sup>1, 2</sup> |     | 470k      | 1k            | - 42dB( 6.16mV )  | - 30dB( 24.5mV ) | 0dB( 0.775V )     | フォーンジャック <sup>3</sup>            |
| AUX IN                            |     | 10k       | 600 Line      | - 22dB( 61.6mV )  | - 10dB( 245mV )  | + 20dB( 7.75V )   | フォーンジャック <sup>3</sup>            |
| 2TR IN( 1, 2 )                    |     | 10k       | 600 Line      | - 22dB( 79.4mV )  | - 10dB( 316mV )  | + 17.8dB( 7.76V ) | RCAピンジャック <sup>3</sup>           |

1. 入力感度:最大ゲイン設定時に定格出力が得られる最小レベル

2. バランス型

3. アンバランス型

・ 0dB = 0.775Vrms, 0dBV = 1Vrms

## 出力仕様

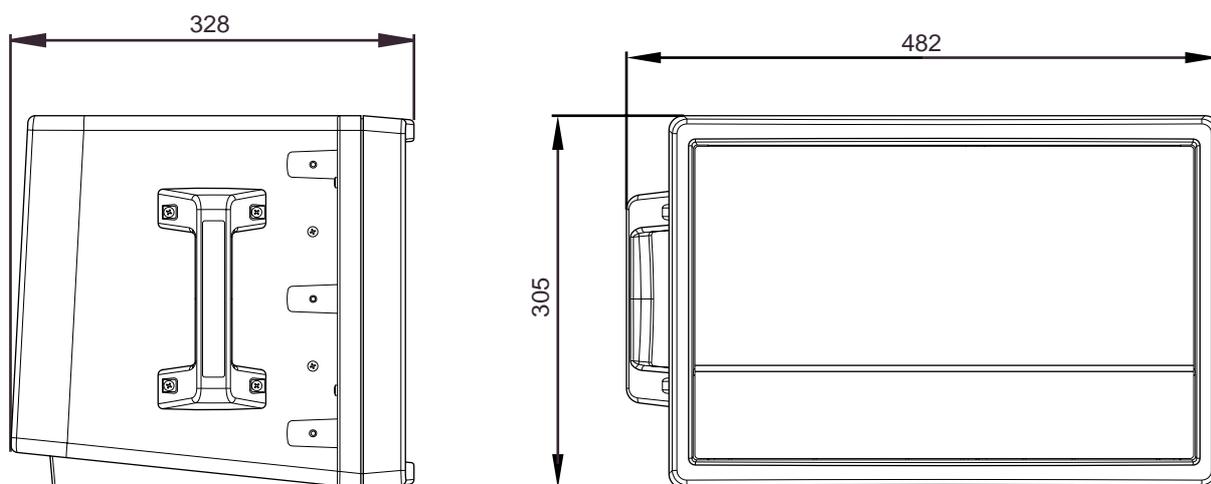
| 出力端子                                 | 出力インピーダンス | ノミナルインピーダンス | 出力レベル           |                 | 使用コネクタ    |
|--------------------------------------|-----------|-------------|-----------------|-----------------|-----------|
|                                      |           |             | ノミナル            | 最大ノンクリップレベル     |           |
| POWER AMP OUT( 1・2 ) <sup>A, B</sup> | 0.1       | 4/8 Speaker | 60W/4           | ( 300W/4 )      | フォーンジャック  |
| BRIDGE OUT                           | 0.1       | 8 Speaker   | 120W/8          | ( 600W/8 )      | フォーンジャック  |
| MAIN OUT                             | 600       | 10 k Lines  | + 4dB( 1.23V )  | + 20dB( 7.75V ) | フォーンジャック  |
| MONITOR OUT                          | 600       | 10k Lines   | + 4dB( 1.23V )  | + 20dB( 7.75V ) | フォーンジャック  |
| EFFECT OUT                           | 600       | 10k Lines   | + 4dB( 1.23V )  | + 20dB( 7.75V ) | フォーンジャック  |
| REC OUT( 1, 2 )                      | 600       | 10k Lines   | - 10dB( 316mV ) | + 10dB( 3.16V ) | RCAピンジャック |

・ 全出力コネクタ: アンバランス型

・ 0dB=0.775Vrms, 0dBV=1Vrms.

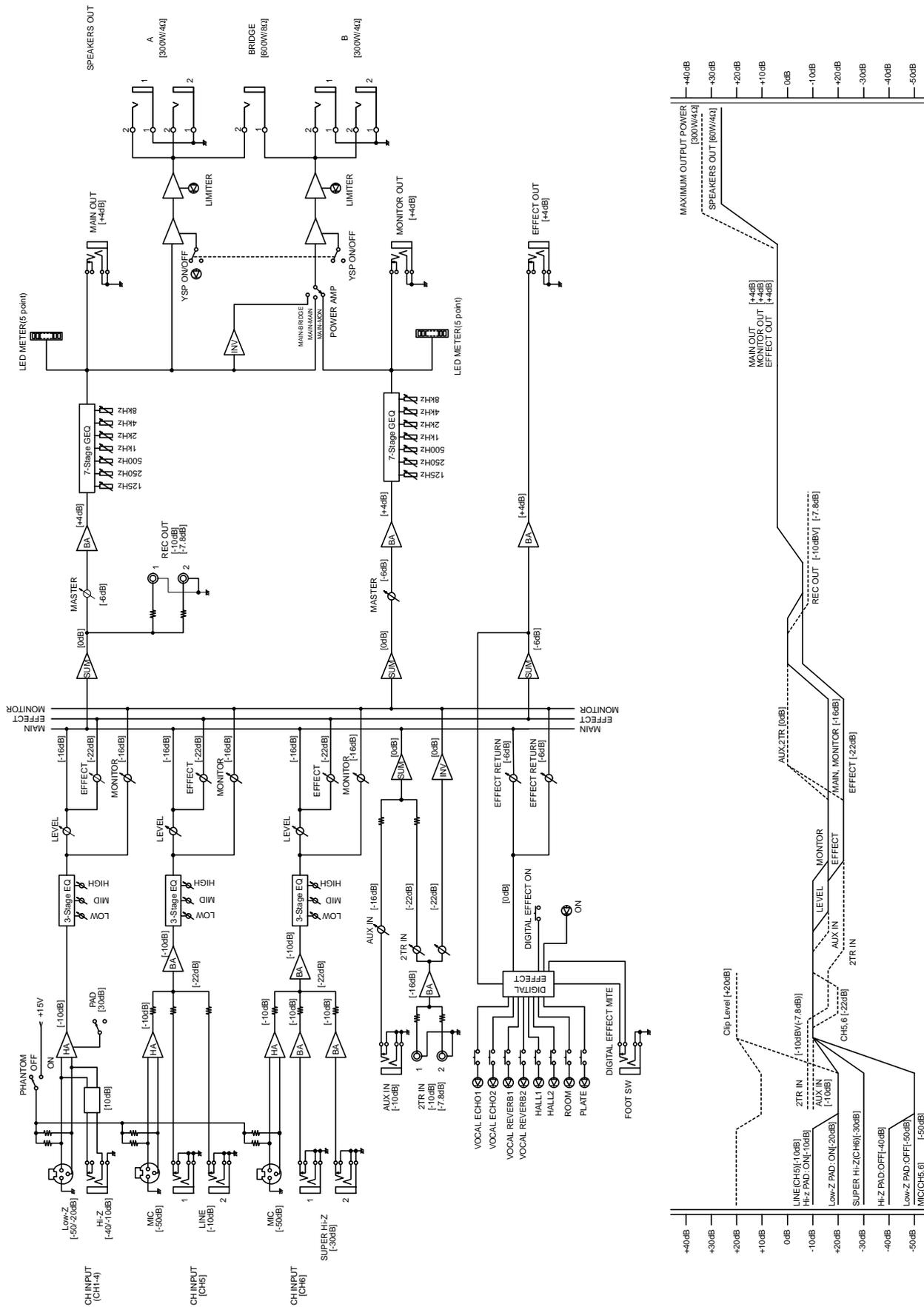
仕様、外観は改良のため予告なく変更することがあります。

# 寸法図



単位：mm

# ブロック/レベルダイアグラム



# サービスについて

## 保証書

この商品には保証書がついています。販売店でお渡ししていますから、ご住所・お名前・お買上げ年月日・販売店名など所定事項の記入および記載内容をおたしかめの上、大切に保管してください。

保証書は当社がお客様に保証期間内の無償サービスをお約束するもので、この商品の保証期間はご購入日より1年です。

保証期間内の転居や、ご贈答用に購入された場合などで、記載事項の変更が必要なときは、事前・事後を問わずお買上げ販売店かお客様ご相談窓口、またはヤマハ電気音響製品サービス拠点へご連絡ください。継続してサービスできるように手配いたします。

## 損害に対する責任

この商品(搭載プログラムを含む)の使用または使用不能により、お客様に生じた損害(事業利益の損失、事業の中断、事業情報の損失、その他の特別損失や逸失利益)については、当社は一切その責任を負わないものとします。また、如何なる場合でも、当社が負担する損害賠償額は、お客様がお支払になったこの商品の代価相当額をもって、その上限とします。

## 調整・故障の修理

「故障かな?と思われる症状のときは、この説明書をもう一度よくお読みになり、電源・接続・操作などをおたしかめください。それでもなお改善されないときには、お買上げ販売店へご連絡ください。調整・修理いたします。

調整・修理に際しては保証書をご用意ください。保証規定により、調整・修理サービスをいたします。また、故障した製品をお持ちいただくか、サービスにお伺いするのもかも保証書に書かれています。

修理サービスは保証期間が過ぎた後も引き続きおこなわれ、そのための補修用性能部品が用意されています。性能部品とは製品の機能を維持するために不可欠な部品のことをいし、PA製品ではその最低保有期間は製造切後8年です。この期間は経済産業省の指導によるものです。

## お客様ご相談窓口

ヤマハPA製品に関するご質問・ご相談は下記のお客様ご相談窓口へ、アフターサービスについてのお問合わせはヤマハ電気音響製品サービス拠点へおよせください。

## お客様ご相談窓口：ヤマハプロオーディオ製品に対するお問合せ窓口

ヤマハ・プロオーディオ・インフォメーションセンター

Tel: 03-5791-7678 Fax: 03-5488-6663 (電話受付 = 祝祭日を除く月～金 / 11:00～19:00)

E-mail: painfo@post.yamaha.co.jp

## EM営業統括部(営業窓口)

### PAグループ

|       |                |           |                  |
|-------|----------------|-----------|------------------|
| PA東京  | ☎ 03-5488-5480 | 〒108-8568 | 東京都港区高輪2-17-11   |
| PA北海道 | ☎ 011-512-6113 | 〒064-0810 | 札幌市中央区南十条西1-1-50 |
| PA仙台  | ☎ 022-222-6214 | 〒980-0804 | 仙台市青葉区大町2-2-10   |
| PA大阪  | ☎ 06-6252-5405 | 〒542-0081 | 大阪市中央区南船場3-12-9  |
| PA名古屋 | ☎ 052-232-5744 | 〒460-8588 | 名古屋市中区錦1-18-28   |
| PA九州  | ☎ 092-412-5556 | 〒812-8508 | 福岡市博多区博多駅前2-11-4 |

企画推進室(プロオーディオ) ☎ 03-5488-5472 〒108-8568 東京都港区高輪2-17-11

## PA・DMI事業部

PE営業部PA国内推進室 ☎ 053-460-2455 〒430-8650 浜松市中沢町10-1

## ヤマハ電気音響製品サービス拠点：修理受付および修理品お預かり窓口

|               |                |           |                                    |
|---------------|----------------|-----------|------------------------------------|
| 北海道サービスステーション | ☎ 011-512-6108 | 〒064-8543 | 札幌市中央区南十条西1-1-50 ヤマハセンター内          |
| 仙台サービスステーション  | ☎ 022-236-0249 | 〒984-0015 | 仙台市若林区卸町5-7 仙台卸商共同配送センター 3F        |
| 首都圏サービスセンター   | ☎ 03-5762-2121 | 〒143-0006 | 東京都大田区平和島2-1-1 京浜トラックターミナル14号棟A-5F |
| 浜松サービスステーション  | ☎ 053-465-6711 | 〒435-0016 | 浜松市和田町200 ヤマハ(株)和田工場6号館2階          |
| 名古屋サービスセンター   | ☎ 052-652-2230 | 〒454-0058 | 名古屋市中川区玉川町2-1-2 ヤマハ(株)名古屋流通センター3F  |
| 大阪サービスセンター    | ☎ 06-6877-5262 | 〒565-0803 | 吹田市新芦屋下1-16 ヤマハ(株)千里丘センター内         |
| 四国サービスステーション  | ☎ 087-822-3045 | 〒760-0029 | 高松市丸亀町8-7 (株)ヤマハミュージック神戸 高松店内      |
| 広島サービスステーション  | ☎ 082-874-3787 | 〒731-0113 | 広島市安佐南区西原6-14-14                   |
| 九州サービスステーション  | ☎ 092-472-2134 | 〒812-8508 | 福岡市博多区博多駅前2-11-4                   |
| 本社/CSセンター     | ☎ 053-465-1158 | 〒435-0016 | 浜松市和田町200 ヤマハ(株)和田工場6号館2階          |

所在地・電話番号などは変更されることがあります。  
2001年10月現在